



春の足音が聞こえながらも…吹く風がまだ頬に冷たく感じられる今日この頃、皆さん如何お過ごしでしょうか？
コロナ感染拡大がいつこうに

止まず、春を迎えるワクワク感も半減されてしましますが、もうひと息。



其々ができることを徹底し、一日も早い終息を待ちましょう。やわらかな日差しの中、梅や桃が一斉に芽吹き始め、少し疲れ気味の気持ちをふんわりやさしく包んでくれるようです。花粉症の皆さんにとっては、辛い時期が重なりますが、どうぞお大事に。お身体大切にお過ごしください！

家を建てる段取り (6)

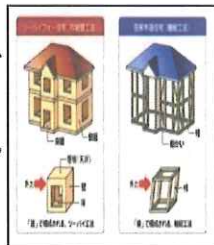
引き続き、家を建てる際に大切な段取りについて書かせていただきます。どんな段階を経て家が完成するのかを楽しみながらご理解いただければ幸いです。

【いろんな工法、どう違う？】

1. 木造軸組工法

日本の伝統的な工法です。多くの住宅会社で採用されており、多湿な日本の気候にはもっとも合っている工法と言えるでしょう。

木の梁や柱で家を支える構造を持ち、比較的自由的な設計が可能で、増改築にも対応しやすい点もメリットです。

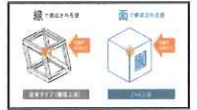


2. 2×4 (ツーバイフォー) 工法

北米から入ってきた工法で、ハウスメーカーでよく採用されています。2インチ×4インチの木材でつくった枠組みに合板などを取り付け、それを組み合わせていきます。開口部を広くとれる、部材が豊富に揃っているなどのメリットがあります。

ツーバイフォーの特徴は、構造耐力に優れた枠材と面材とが一体となった『面』で支える構造であり、6面相互の緊結により家を形づくりします。

これにより外力を建物全体で受け止め、荷重を一点に集中させることなく分散させるため、強さを発揮します。



木の家は、日本の気候において、冬には温もり、夏には涼しさをもたらし、加えて調湿作用もあります。

木には天然の「エアコンディショニング能力」が備わっているのです。

3. プレハブ工法

工場である程度まで仕上げた部材を現場に運び、そこで組み立てるという工法で、大手ハウスメーカーで多く採用されており、一般的に工期が短いというメリットがあります。

メーカーによって、木質系、鉄骨系、コンクリート系、ユニット系などの種類があります。



※それぞれの特徴を考慮し工法選びをしてください。

次回に続く

「酒粕って、どんなもの？」

日本酒は、蒸した酒米と米麴と水をアルコール発酵させたものです。発酵した醪（もろみ）を压榨することで日本酒ができますが、残った搾りかすが酒粕です。酒粕には、清酒の原料である米や麴、酵母由来のたんぱく質、たんぱく質が分解されてできるペプチドや、ビタミンなどの栄養素が豊富に含まれています。

また、食物繊維も豊富です。

酒粕に含まれるアミノ酸は種類が多く、うま味成分が豊富に含まれることから、料理素材としても活用されてきました。

日本酒は、原料となる米の精米度や作り方によって種類分けされていますが、酒粕も吟醸酒より米の精米度が高い大吟醸酒の製造過程でできた酒粕の方が、風味も良いそうです。



春一番が吹き荒れた日



日本海で低気圧が発達し、立春から春分頃までの間に、広い範囲で初めて吹く暖かく、やや強い南寄りの風を春一番と言います。

今年もそんな季節になりましたが、今回は春一番にちなんだエピソードをお届けします。



僕は、コンビニで働いています。

その日は本当に物凄い強風で、朝から、働いているお店の看板が倒れたりトラブル続きで、ずっと落ち着かず少々疲れ切っていました。

そんな時に、レジの前に立った若いカップルの彼氏の方が、

「駐車場の隅に置いてある段ボールが、風で飛び散って危険だし、迷惑なんですけど、あのままにしておいていいんですか？」と、少し怒り口調で言ってきたのです。

こちらも疲れてイライラしていたので、まずは「申し訳ございません。今すぐ片付けます」とその場を収め、しゅしゅ強風の吹き荒れる外へ出て駐車場を見ると・・・！！

見事に段ボールが辺り一面に散らばり、風に舞っていました。



仕方なく片付け始めたものの、その最中も強風は止むはずもなく、気の遠くなるような作業を続けました。

もうこのまま放っておいたら、風に飛ばされて何処かへ行くだろう・・・なんて思いながらも必死で掻き集めていたら、後ろから声がした。

振り返ると、

「すみません、これ・・・」と、さっきのカップルの彼女の方が、自分よりはるか多くの段ボールを抱えて立っているではありませんか。

彼女のクルクルとカールした髪は強風で乱れ、フリルがついた、デート用のおしゃれな服を着ているのに全く気にもせず、汚い段ボールを胸いっぱい抱えて・・・

その後ろには、彼氏が、やはりたくさんの汚れた段ボールを抱えて立っていた。

いくら疲れていたとはいえ、面倒くさいとか、強風でどっかへ飛んで行っちゃえばいいのに、なんて考えた自分。

そんな二人の姿を見て、正直とても恥ずかしくなった。

そして、申し訳ない気持ちでいっぱい。

僕は、二人から段ボールを黙って受け取り、深々と頭を下げることはできませんでした。

春一番は、春の訪れを感じさせる響きがあるものの、海上では大シケ、空のダイヤが乱れる、等など警戒を要する風でもあります。

でも、このカップルのように、爽やかに暖かい風が吹いたら嬉しいですね。



「編集後記」

春一番と共に新しい春が巡ってきました。

好きな場所に出掛けたり、会いたい人に会う・・・

それが、決して当たり前のことではなかったのだと気づかされた1年が過ぎていきます。

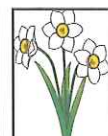
これまでに経験したことのない、心身の疲れを感じている方も多いのではないかと思います。

でも、身動きが不自由な今も、こころだけは自由です。

好きな場所に飛んで、好きな人へ思いを馳せて、明るい春を待ちましょう。

まだ少しの間は寒い日が続きますが、ご自愛ください！

今月号もお読みいただき有難うございました。



「やすらぎ通信」をメールでご覧いただけます。

ご希望の方は、アドレスをお知らせください。

編集責任者 渡辺 田鶴子